

PRESTO® W92tt

100リットル反応容器を
-80℃から+20℃に加熱。

目的：

このケーススタディでは100リットルのガラスリアクターでJULABO PRESTO W92ttの加熱能力テストを実施。
W92ttは片道3mのメタルチューブでリアクターに接続されています。
-80℃から+20℃に加熱するようにプログラムされています。



環境：

室温	+20 °C
湿度	45%
電源	400 V / 50 Hz

試験条件：

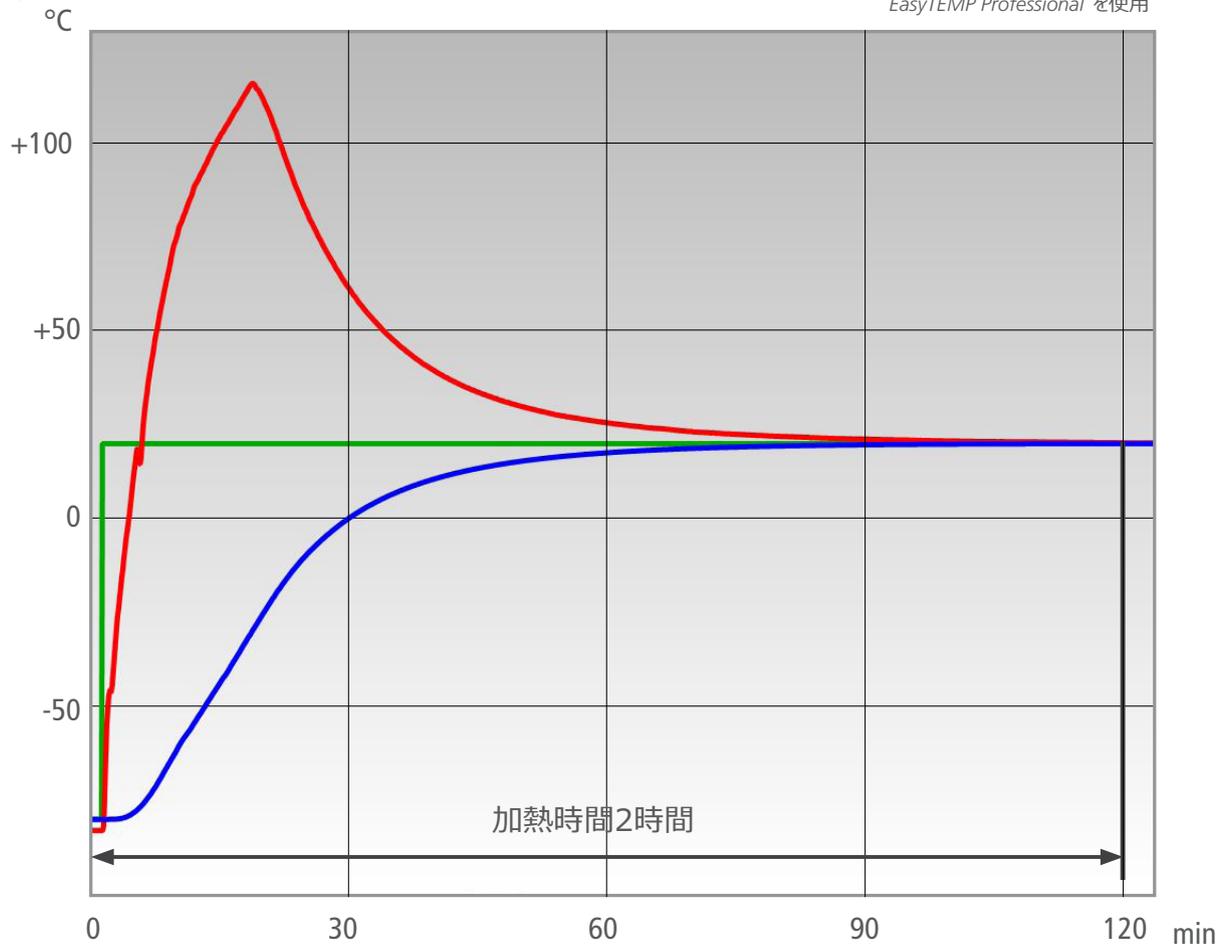
使用機器	ユラボ社製 PRESTO W92tt
冷却能力	+20 °C 19 kW 0 °C 15.5 kW -20 °C 9.5 kW
加熱容量	36 kW
バンドリミット	with
ポンプ圧	0.5 bar
循環液	ユラボ社製 サーマルHL80
反応容器	100Lガラス反応容器 (Büchiglas) 容器内にはエタノールを70L充填
ジャケット充填量	30 l
コントロール	外部制御 (ICC)



試験結果：

PRESTO® W92tt の加熱プログラムでは-80℃から+20℃へ2時間オーバーシュート無しで実施。

EasyTEMP Professional を使用



- 設定温度
- ガラス反応容器内温度
- ガラス反応容器ジャケット内温度

その他機能
バンドリミッドにより容器内部温度とジャケット温度の最大温度差の設定が可能。これにより、反応容器の破損防止をします。

反応容器の構造

ジャケット部 容器内部

その他機能
M+Rインライン温度センサーを使用すれば循環経路上の温度を追加で表示、記録する事が出来ます。